
5 日後の消失

九重初音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

5日後の消失

【Nコード】

N8104F

【作者名】

九重初音

【あらすじ】

新米小説家の図書館でのほのぼの話。

「…大丈夫ですか？」
彼の名は、吉田さん、と言った。

私の職業は、一応小説家。のはずだ。

しかし私は今まで出した本はまだ一冊。最近発売されたばかり。
なのにまた催促。どうやら出版社は、ありがたいことに全力で私を
売り出そうとしてくれるらしい。

ありがたいのだが、取材などももちろん多い。が、私は他人と話す
ことが苦手なのだ。

だからこそ、小説家になった、ともいえる。

とにかく、そんな慌ただしい生活の中で、新作しかも短編っておい
書けるか！

家じゃ集中できないので、毎日図書館でペンを進めようと努力して
いる。

そこでよく話すのが、吉田さん。

毎日いる訳じゃないけど、定期的に館内業務をしている。書庫にい
る時間もあるらしいからだろう。

にしてもいる時間が短い気もする。まあ図書館についてはよく分か
らないから、ほかの館員さんと比べるのもどうかと思うのだけれど。

ここの図書館は、都内で一番大きい。

だから私は、神奈川県在住で、仕事にも位置的に問題なかったのに
この近くへ越してきた。

窓の外に、花壇が見える。そのそよそよ揺れている、白い花は、カ
モミール？

その海の波のような律動的な花びらの揺れに心奪われているうちに…
ブラックアウト。

少し寒いな…多分夢の中で1回思っ…それから暖かくなって…
また私の記憶は飛んだ。

「ぬあっ！」

自分でも意味の分からない奇声を上げ飛び起きる。

図書館で寝てしまうというまさかの大失態。しかも一応小説家なのに！

まだ少しぼやけている視界で上を見ると、吉田さん。

吉田さんは、少し私の様子を伺った後、「大丈夫ですか？」と問いかけてきた。

多分、奇声を上げたので何事かと思ひ来てくださったのだろう。

「大丈夫です？ん？」

自分の肩には暖かい感覚。

そこには図書館員の制服の上着。

「ご、ごめんなさい！これ」慌てて差し出すと、向こうは笑って「どうも」と囁いた。

「ホントにありがとうございます、助かりました」

そっぴい軽く会釈して荷物を持つ。気付くともう、退館時間ぎりぎりだった。

「では、またおまちしてますよ」

その言葉を背に、私は図書館を後にした。

まったく。

あの人は本気で気付いていないのか。あの時俺との間にあった奇妙なやり取り、全て忘れてるのか？

「てか仮にも小説家さんなんだから、あんなところで寝るなよ」

その咳きは、聞こえてしまったのだろうか？

「やっぱりさー、ファン以上の感覚、あるんじゃないの？」

ねーよ！と先輩相手なのに叫んでしまった。

ない。ないったらない。絶対ない。

そう咳きながら、俺は閲覧室を後にした。

(後書き)

相変わらずの超短編ですいませんorz
ご感想くれると死ぬほどありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8104f/>

5日後の消失

2011年1月2日02時40分発行